

Kani氏の方法を拡張して立体剛接構造の試算計算法を試みた。まだ具体的な問題の計算段階には至っていないが、とりあえず一応の考察がまとまったので報告する次第であります。

§1. 座標変換

任意の二つの Cartesian 座標系 χ^j, χ^i の基本ベクトルを e_j, e_i とし、 χ^i の χ^j 座標系に関する方向余弦を a_j^i とすると、つぎの座標変換式が得られる。

$$\begin{cases} e_i = \sum a_j^i e_j \\ e_j = \sum a_j^i e_i \end{cases} \quad \begin{cases} \chi^i = \sum a_j^i \chi^j \\ \chi^j = \sum a_j^i \chi^i \end{cases}$$

また、ベクトル V の χ^j, χ^i の両座標系に関する成分を v^j, v^i とすれば同様な変換式が得られる。すなわち

$$v^i = \sum a_j^i v^j, \quad v^j = \sum a_j^i v^i$$

§2. 部材端に任意方向の端モーメントが作用した場合

χ^i 座標系に関する方向余弦が $a_1^{(AB), i}$ なる部材 AB の部材端 A に、モーメント $M = \sum M^i e_i$ が作用した場合について考察する。

今、材軸方向に $\chi^{(AB), 1}$ 軸、水平直交方向に $\chi^{(AB), 2}$ 軸、直交上方向に $\chi^{(AB), 3}$ 軸なる Cartesian 座標軸を定め、これらの基本ベクトルを $e_1^{(AB)}, e_2^{(AB)}, e_3^{(AB)}$ とすれば

$$e_i^{(AB)} = \sum a_j^{(AB), i} e_j, \quad e_j = \sum a_j^{(AB), i} e_i^{(AB)}$$

となり、 $a_j^{(AB), i}$ は次式で表わされる。

$a_1^{(AB), 1}$: AB 部材の χ^j 座標系に関する方向余弦

$$a_2^{(AB), 1} : -a_2^{(AB), 1} / \sqrt{1 - (a_3^{(AB), 1})^2} = -\sin \alpha, \quad a_1^{(AB), 1} / \sqrt{} = \cos \alpha, \quad 0$$

$$a_3^{(AB), 1} : -a_1^{(AB), 1} a_3^{(AB), 1} / \sqrt{} = -\cos \alpha \cos \beta, \quad -a_2^{(AB), 1} a_3^{(AB), 1} / \sqrt{} = -\sin \alpha \cos \beta, \quad \sqrt{} = \sin \beta$$

また、モーメント M の $\chi^{(AB), i}$ 軸方向の成分を M_{AB}^i とすれば

$$M_{AB}^i = M \cdot e_i^{(AB)} = (\sum M^k e_k) \cdot (\sum a_j^{(AB), i} e_j) = \sum a_j^{(AB), i} M^k, \quad M^k = \sum a_k^{(AB), i} M_{AB}^i$$

となり、これらの各成分は振りモーメントおよび曲げモーメントを、もたらし端モーメントである。

$$M_{AB}^1 = \sum a_k^{(AB), 1} M^k ; \text{振りモーメント}$$

$$M_{AB}^2 = \sum a_k^{(AB), 2} M^k ; \text{鉛直たわみをもたらし端モーメント}$$

$$M_{AB}^3 = \sum a_k^{(AB), 3} M^k ; \text{水平たわみをもたらし端モーメント}$$

$$\text{また、} M = \sum M^i e_i = \sum M_{AB}^k e_k^{(AB)} = \sum a_k^{(AB), i} M_{AB}^k e_i = \sum a_k^{(AB), i} M^k e_k^{(AB)}$$

§3. たわみ角法の基本式と振りモーメント式の変形

ここで取り扱うものは等断面部材のものである。しかし変断面部材のものも後述の基本式に係数を乗ずることによって解くことができる。さて任意部材 AB におけるたわみ角法の基本式は $i \neq 1$ として

$$\text{回転成分；} M_{AB}^i = 2EK_{AB}^i \theta_{AB}^i, \quad M_{BA}^i = 2EK_{AB}^i \theta_{BA}^i \quad \text{固定端モーメント；} \bar{M}_{AB}^i = C_{AB}^i, \quad \bar{M}_{BA}^i = C_{BA}^i$$

$$\text{変位成分；} \bar{M}_{AB}^i = \bar{M}_{BA}^i = -6EK_{AB}^i R_{AB}^i$$

と置くことによって、次式で表わすことができる。

$$M_{AB}^i = \bar{M}_{AB}^i + 2\bar{M}_{AB}^i + \bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i$$

$$M_{BA}^i = \bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i + 2\bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i \quad \text{ただし, } i \neq 1$$

部材ABのA端およびB端における振りモーメント M_{AB}^i および M_{BA}^i は一般に次式で示される。

$$M_{AB}^i = J(\theta_{AB}^i - \theta_{BA}^i)/\ell = GJ(\theta_{AB}^i - \theta_{BA}^i)/\ell$$

$$M_{BA}^i = J(\theta_{BA}^i - \theta_{AB}^i)/\ell = GJ(\theta_{BA}^i - \theta_{AB}^i)/\ell$$

ただし, J ; 振り剛性, $J = GJ$, G ; 横弾性係数

$$\theta_{AB}^i, \theta_{BA}^i; A \text{ および } B \text{ 端の振り角}$$

また, G と E の間には次の関係がある。ただし, ν はポアソン比とする。

$$G = E/2(1-\nu)$$

上式を振りモーメントの式に代入して次式を得る。

$$M_{AB}^i = 2EK_{AB}^i(2\theta_{AB}^i - \theta_{BA}^i), \quad M_{BA}^i = 2EK_{AB}^i(2\theta_{BA}^i - \theta_{AB}^i)$$

$$K_{AB}^i; \text{等価剛度, } K_{AB}^i = J^2/8(1-\nu)\ell$$

ここで, 振り成分; $M_{AB}^i = 2EK_{AB}^i\theta_{AB}^i$, $M_{BA}^i = 2EK_{AB}^i\theta_{BA}^i$

とあけば, 振りモーメントの式は次式となる。

$$M_{AB}^i = 2M_{AB}^i - 2M_{BA}^i, \quad M_{BA}^i = 2M_{BA}^i - 2M_{AB}^i, \quad M_{AB}^i = -M_{BA}^i$$

§4. 回転係数と変位係数

(A) 回転係数 節点Aに於ける外力としてのモーメント荷重を $\bar{M}_A$ とすれば, 節点方程式は $\sum M = \bar{M}_A$

とすれば,

$$2\sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} M_{AB}^i = -\{\bar{M}_A + \sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} (M_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i) - \sum_{B,i=1}^n a_{R,i}^{(AB),i} (3M_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i)\}$$

ただし, $\bar{M}_A = \sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} \bar{M}_{AB}^i$; χ^R 方向の固定モーメント

回転係数 μ_{AC}^R と $M_{AC}^R = -2\mu_{AC}^R \sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} M_{AB}^i$ と定義すれば

$$\mu_{AC}^R = -2EK_{AC}^R \theta_{AC}^R / 2\sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} \cdot 2EK_{AB}^i \theta_{AB}^i$$

各部材の節点角 θ_{AB}^i は節点角 θ_A の成分である。したがって, $\theta \neq 0$ とすれば, θ_{AB}^i は θ_A の各成分によるものに

分けて考察できる。成分 θ_A^R による場合を考えれば

(B) 変位係数 節点Aは普通 χ^1, χ^2 方向の剪断力の釣合を考えると, 特殊な形の構造

物に於ては, χ^3 方向の釣合も考えなければならぬ。ここでは χ^1 方向の剪断力の釣合を考える。

A_n^i ; I_n 部材の n 端に於ける荷重の χ^1 方向のモーメント。

S_I^i ; $I-I$ 層の χ^1 方向の荷重。 ℓ_{In} ; I_n 部材の長さ。

$$\sum \left(\frac{M_{I_n}^{i+1} + M_{I_n}^{i+1} + M_{I_n}^i + M_{I_n}^i}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In} + a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} \right) = -S_I^i \sum \left(\frac{A_n^i}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} + \frac{A_{n+1}^i}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} \right)$$

ここで, $R \neq L$, $R \neq L=1$, $i-1 \neq R$ (または L)

$$S_I^i = -S_I^i - \sum_{n,i,R} (A_n^i / a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In})$$

とあければ $\sum_{n,i,R} \frac{M_{I_n}^i + M_{I_n}^i}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} = -S_I^i$ として $M_{AB}^i = 0$ であるから,

また, 部材ABの中間に振りモーメント荷重が作用すれば, 両端に振りモーメント $\bar{M}_{AB}^i, \bar{M}_{BA}^i$ が生ずる。

したがって, $M_{AB}^i = \bar{M}_{AB}^i + 2(\bar{M}_{AB}^i - \bar{M}_{BA}^i)$

$$M_{BA}^i = \bar{M}_{BA}^i + 2(\bar{M}_{BA}^i - \bar{M}_{AB}^i)$$

ここで, δ_{ij} をクロネッカのデルタとすれば, 基本式は, $M_{AB}^i = \bar{M}_{AB}^i + 2\bar{M}_{AB}^i + \bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i - \delta_{ii}(3\bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i)$

したがって

$$M_{AB}^i = \sum a_{j,i}^{(AB),i} \bar{M}_{AB}^i = \sum a_{j,i}^{(AB),i} \{ \bar{M}_{AB}^i + 2\bar{M}_{AB}^i + \bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i - \delta_{ii}(3\bar{M}_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i) \}$$

つぎに節点角 $\theta = \sum \theta_i e_i$ と各部材に対する成分との関係について考察する。

$$\theta_{AB}^i = \theta_A \cdot e_i^{(AB)} = \sum \theta_A^R e_j \cdot \sum a_{R,i}^{(AB),i} e_R = \sum \theta_A^R a_{R,i}^{(AB),i}$$

同様にして

$$\theta_A^R = \sum a_{R,i}^{(AB),i} \theta_{AB}^i$$

を得る。

となる。この式の χ^R 成分について考える。

$$\sum M_A^R = \bar{M}_A^R$$

$$\mu_{AC}^R = -a_{R,i}^{(AC),i} K_{AC}^R / 2\sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} a_{R,i}^{(AB),i} K_{AB}^i$$

$$\therefore \mu_{AC}^R = -\sum_{B,i} \left(\frac{a_{R,i}^{(AC),i} K_{AC}^R}{2\sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} a_{R,i}^{(AB),i} K_{AB}^i} \right)$$

したがって

$$M_{AC}^R = \mu_{AC}^R \{ \bar{M}_A^R + \sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} (M_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i) - \sum_{B,i} a_{R,i}^{(AB),i} (3M_{BA}^i + \bar{M}_{AB}^i) \}$$

この回転成分は χ^R 方向の釣合より求めたものであるから, 各方向について計算し, これらの和としなければならぬ。

ここで変位係数 $\nu_{Im} = \bar{M}_{Im}^i / 2\chi_{Im}^i = \sum \left(\frac{S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} \right)$ とあければ

$$\bar{S}_I^i = -S_I^i - \sum_{n,i,R} \left(\frac{S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} \right) \text{ とあければ}$$

$$2\sum_{n,i} \frac{S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} = -S_I^i + \sum_{n,i,R} \frac{a_{I_n}^{(I_n),i} (M_{I_n}^{i+1} + M_{I_n}^{i+1}) - S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} (M_{I_n}^i + M_{I_n}^i)}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}$$

ここで変位係数 $\nu_{Im} = \bar{M}_{Im}^i / 2\chi_{Im}^i = \sum \left(\frac{S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}} \right)$ とあければ

$$\nu_{Im} = K_{Im}^i \chi_{Im}^i / 2\sum_{n,i} \frac{S_I^i a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}{a_{I_n}^{(I_n),i} \ell_{In}}$$

ここで ν は変形条件により定まる定数である。